

京築・行橋・田川圏域 流域治水プロジェクト 【取り組みの紹介】(1/2)

No.	機関名	種別	分類	対策
1	行橋市	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	内水氾濫対策	雨水ポンプ場の更新、耐水化→排水機場（雨水ポンプ場）の更新
2			雨水貯留浸透機能の向上	ため池の補強・有効活用
3			豊前市	ため池の有効活用
4	添田町	被害対象を減少させるための対策	防災意識の啓発	自主防災組織の設立支援
5		被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	住民等への防災情報の周知	様々な防災情報提供ツールや情報提供媒体を活用した防災情報伝達の強化・多重化
6	苅田町	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	雨水貯留浸透機能の向上	ため池の補強・有効活用
7				ため池の補強・有効活用
8				ため池の補強・有効活用
9			吉富町	戦略的な維持管理
10		被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難場所や避難経路の確保	全町民を対象とした防災避難訓練
11	上毛町	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	雨水貯留浸透機能の向上	ため池の補強・有効活用
12		被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報の共有	ため池の補修・対策及び適正な維持管理、ため池ハザードマップの公表作成
13	築上町	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	雨水貯留浸透機能の向上	ため池の防災・耐震工事の実施
14	行橋市、豊前市、添田町、赤村、苅田町、みやこ町、吉富町、上毛町、築上町	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報の共有	各種ハザードマップの作成・公表
15	福岡県・施設管理者	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	既存ダムでの洪水調節機能の強化	利水ダム等における事前放流の運用
16	福岡県		内水氾濫対策	農業水利施設の整備・有効活用ため池の補強・有効活用水田の貯留機能向上
17			雨水貯留浸透機能の向上	
18			雨水貯留浸透機能の向上	
19			洪水氾濫対策	河道掘削・拡幅、護岸整備等（長峽川）
20				河道掘削・拡幅、護岸整備等（井尻川）
21				河道掘削・拡幅、護岸整備等（江尻川）
22	福岡森林管理署、森林整備センター、福岡県	砂防対策	砂防施設の整備、急傾斜地崩壊防止施設の整備	
		森林整備、治山対策	森林整備事業の実施、水源林造成事業の実施、治山施設の設置	

京築・行橋・田川圏域 流域治水プロジェクト 【取り組みの紹介】(2/2)

No.	機関名	種別	分類	対策
23	福岡管区気象台	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災意識の啓発	防災意識啓発のための広報活動
24			リアルタイム防災情報の共有	警戒レベルに応じた防災気象情報の周知
25			防災意識の啓発	自治体職員向け気象防災ワークショップの実施
26	住民等への防災情報の周知		様々な防災情報提供ツールや情報提供媒体を活用した防災情報伝達の強化・多重化	
27	防災意識の啓発		防災教育、出前講座の実施及び水防災学習の支援	
28	リアルタイム防災情報の共有		水位計・量水標・河川監視カメラの設置	
29	福岡県		防災意識の啓発	防災意識啓発のための広報活動
30			タイムラインの作成、ホットラインの構築	関係機関のホットラインの構築
31			水害リスク情報の共有	各種浸水想定区域図(または過去の浸水実績範囲)の作成・公表
32			被害の軽減	個別避難計画作成促進事業

内水氾濫対策

排水機場(雨水ポンプ場)の更新

(行橋市の取り組み)

- 東部雨水ポンプ場は、行橋駅東側の中心市街地、96haを排水区域としている重要な施設です。しかし、昭和49年に供用開始しており、施設の老朽化が進んでいるため、建て替えを計画しています。
- 当該場所は、市の防災マップで浸水想定区域に指定されているため、耐水化を行いポンプ場の建て替えを行う予定です。

氾濫域

■位置図・写真

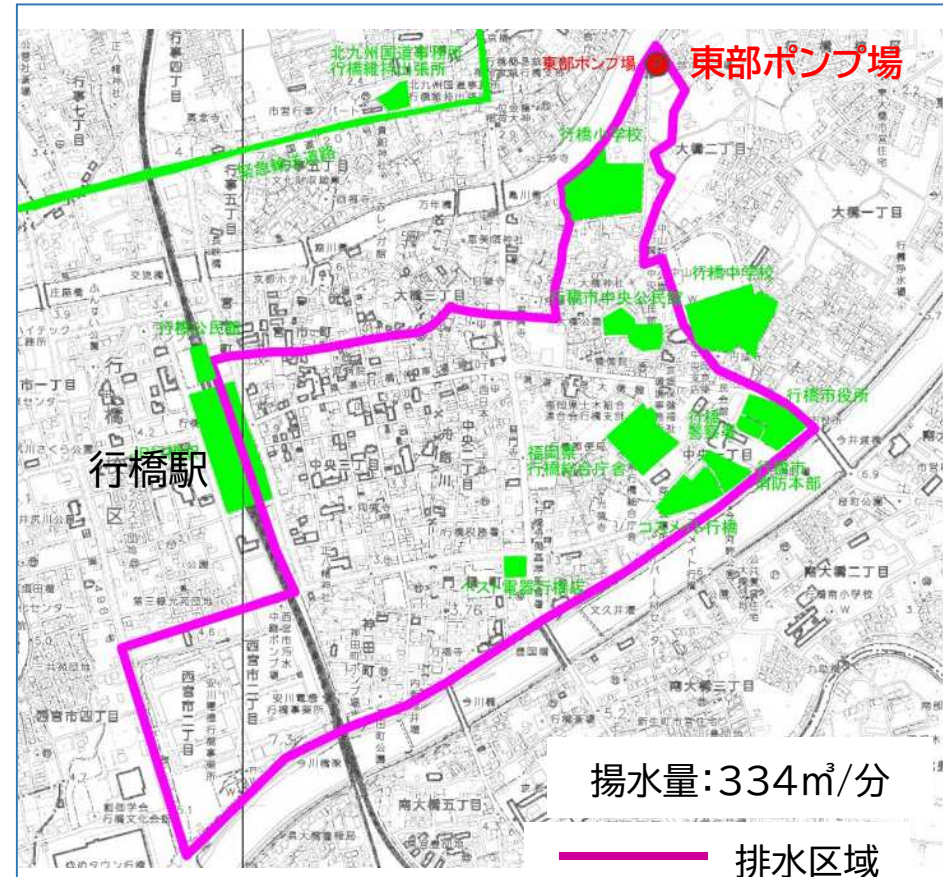
外観



内部状況



■取り組み内容の説明



雨水貯留浸透機能の向上

ため池の補強・有効活用

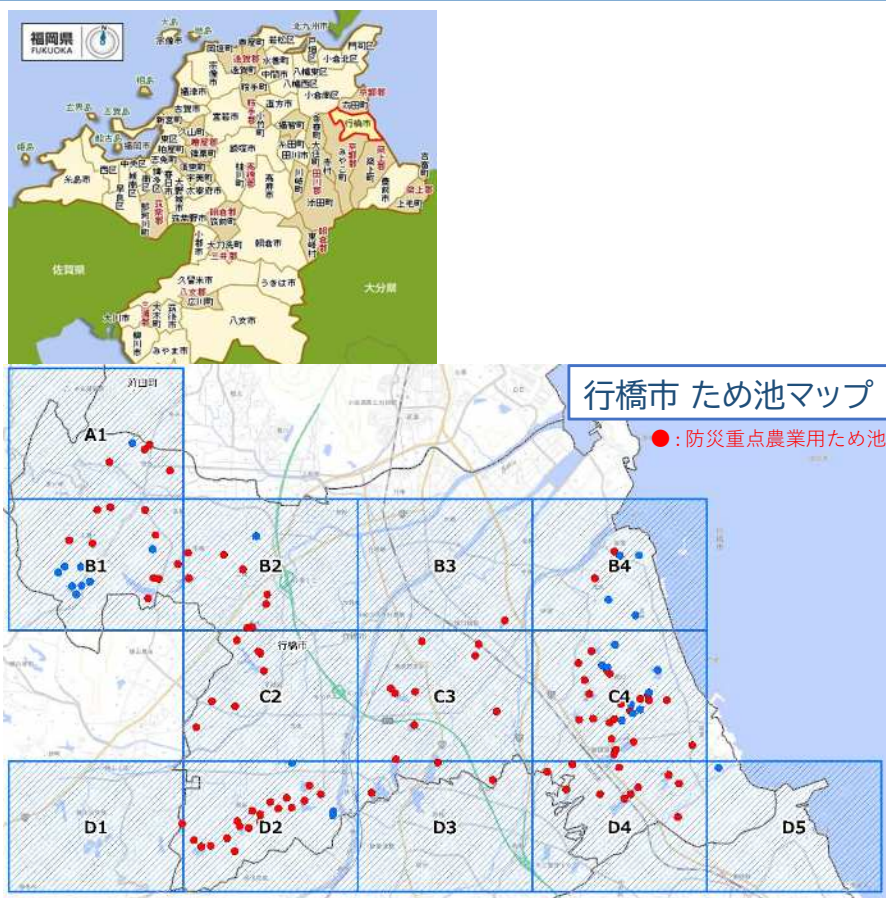
(行橋市の取り組み)

- 行橋市では97箇所の防災重点農業用ため池を対象に、防災工事等推進計画に基づき「劣化状況評価」及び「地震・豪雨耐性評価」を実施していく予定です。(劣化状況評価:令和3年～令和12年)
なお、過年度に「地震・豪雨耐性評価」を実施し、補強工事等が必要と判断されたため池については、実施計画を策定し、防災工事を進め、ため池の適正な維持管理に努めます。
- 農業ため池の貯留機能向上のため、ため池の浚渫工事を推進していきます。

氾濫域

集水域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明

- ①劣化状況評価、地震・豪雨耐性評価に基づく対策
平成25年～令和3年度までに21箇所の防災重点農業用ため池について、劣化状況評価、地震・豪雨耐性評価を実施済みである。
劣化状況評価、地震・豪雨耐性評価の結果、安全率不足や堤体の余裕高不足、洪水吐能力不足のため池15箇所について、防災工事等を順次行う予定である。
- ②ため池の浚渫
ため池の貯留機能向上のため、池敷に堆積した土砂の浚渫工事を進めています。浚渫したため池については、集中豪雨に備え、営農に支障のない範囲での低水管理の協力をお願いしている。

氾濫をできるだけ防ぐ・
減らすための対策

京築・行橋・田川圏域 流域治水プロジェクト【取り組みの紹介】

～「うみ」「まち」「さと」「やま」が豊かな地域を水災害から守る圏域が一体となった流域治水の推進～

福岡県

雨水貯留浸透機能の向上

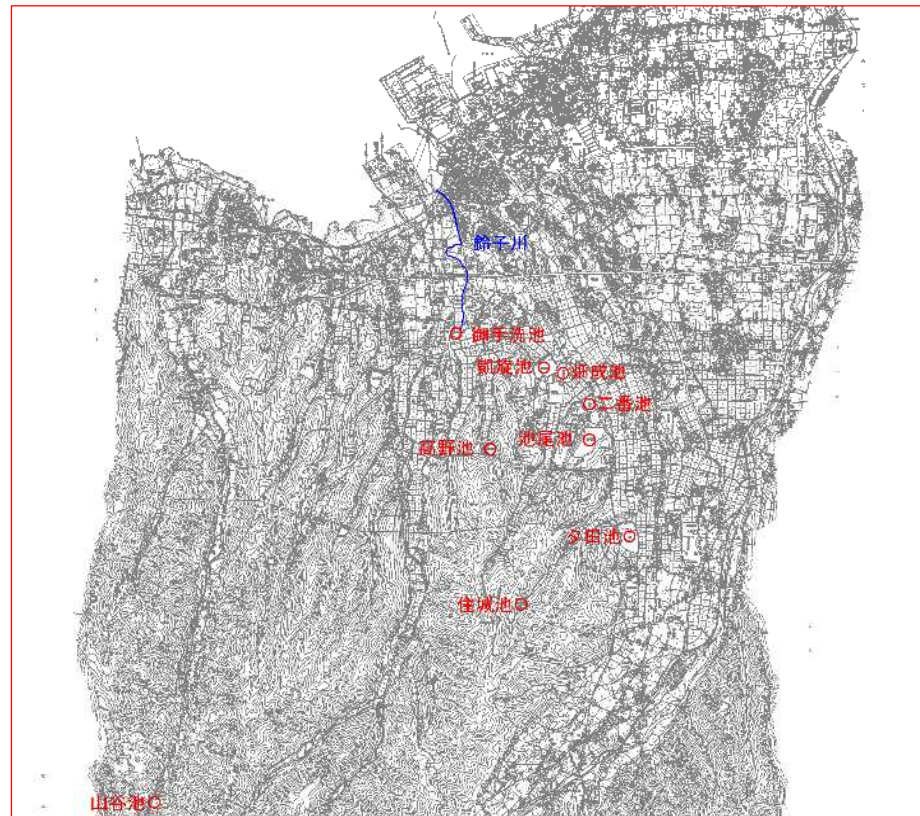
ため池の有効活用

(豊前市の取り組み)

- 市内9箇所の防災重点農業用ため池において、大雨が予測される時、営農に支障のない範囲で事前放流を実施し、雨水の流出抑制を図ります。

集水域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明



防災意識の啓発

自主防災組織の設立支援

(添田町の取り組み)

- ▶ 自主防災組織の設立に関する説明会を地域に対して行い、近年多発する想定外の災害に対して行政だけの「公助」では対応できない部分を自分では自分で守るという「自助」と協力して守るという「共助」によって防災意識を高め自主防災組織の設立を支援します。

氾濫域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明

2018年から2022年にかけて要望のあった各地区の住民説明会を行い、現在、6行政区において自主防災組織が設立している。また、新たに1行政区において自主防災組織が今後設立する予定。

支援として、自主防災組織の規約、組織図、防災計画策定や避難訓練等の手伝いを行う。

新型コロナウイルスも落ち着いたため、今後積極的に自主防災組織の設立に関する取り組みを行うように努める予定。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

京築・行橋・田川圏域 流域治水プロジェクト【取り組みの紹介】

～「うみ」「まち」「さと」「やま」が豊かな地域を水災害から守る圏域が一体となった流域治水の推進～

福岡県

住民等への防災情報の周知

様々な防災情報提供ツールや情報提供媒体を活用した 防災情報伝達の強化・多重化

(添田町の取り組み)

- ▶ 防災無線を活用してきたが、防災ラジオを各家庭に配布し、令和3年10月より運用を開始しており、住民の避難行動等につなげます。

氾濫域

■位置図・写真



添田町 防災ラジオ



家庭に1台
防災ラジオ配布日程のお知らせ

配布日	時間	対象地域
9月9日(日)	10時から11時	守田、添田南、添田中、添田西
9月9日(日)	10時から11時	
9月12日(水)	10時から10時	磯地、磯地西
9月14日(金)	10時から10時	
9月15日(土)	10時から10時	高一、高二、高三、高四
9月16日(日)	10時から10時	
9月20日(木)	10時から10時	伊藤、藤田
9月22日(土)	10時から10時	
9月23日(日)	10時から10時	五浦、正事、正北、正南
9月24日(月)	10時から10時	
9月25日(火)	10時から10時	磯地北、磯地南、磯地東
9月26日(水)	10時から10時	
9月27日(木)	10時から10時	高次、高次西
9月28日(金)	10時から10時	
9月29日(土)	10時から10時	高内中
9月30日(日)	10時から10時	

広報そえだ
令和3年9月号

■取り組み内容の説明

避難所開設時や避難指示時に防災無線を活用してきたが、豪雨時などは、聞き取りにくい地域などが発生したため、防災ラジオを各家庭に配布し、令和3年10月より、運用を開始している。

これにより、各家庭に、確実に情報を提供することが可能になり、避難行動などが迅速に促せることが出来るようになる。

雨水貯留浸透機能の向上

ため池の補強・有効活用

(苅田町の取り組み)

- 大雨によるため池の決壊防止やため池下流域の水路の氾濫による浸水被害を防止する為、ため池の事前放流及び低水位管理を行うことで、一時的に雨水を貯留し流出量を抑え、ため池下流域の急激な水位上昇を抑制します。
- ため池の劣化状況評価、地震・豪雨耐性評価を計画的に行い、ため池の状態を把握し、防災工事等の対策を行っていきます。

集水域

■位置図・写真



古屋敷池(ドローンにより上空から撮影)

■取り組み内容の説明

古屋敷池の低水位管理状況



雨水貯留浸透機能の向上

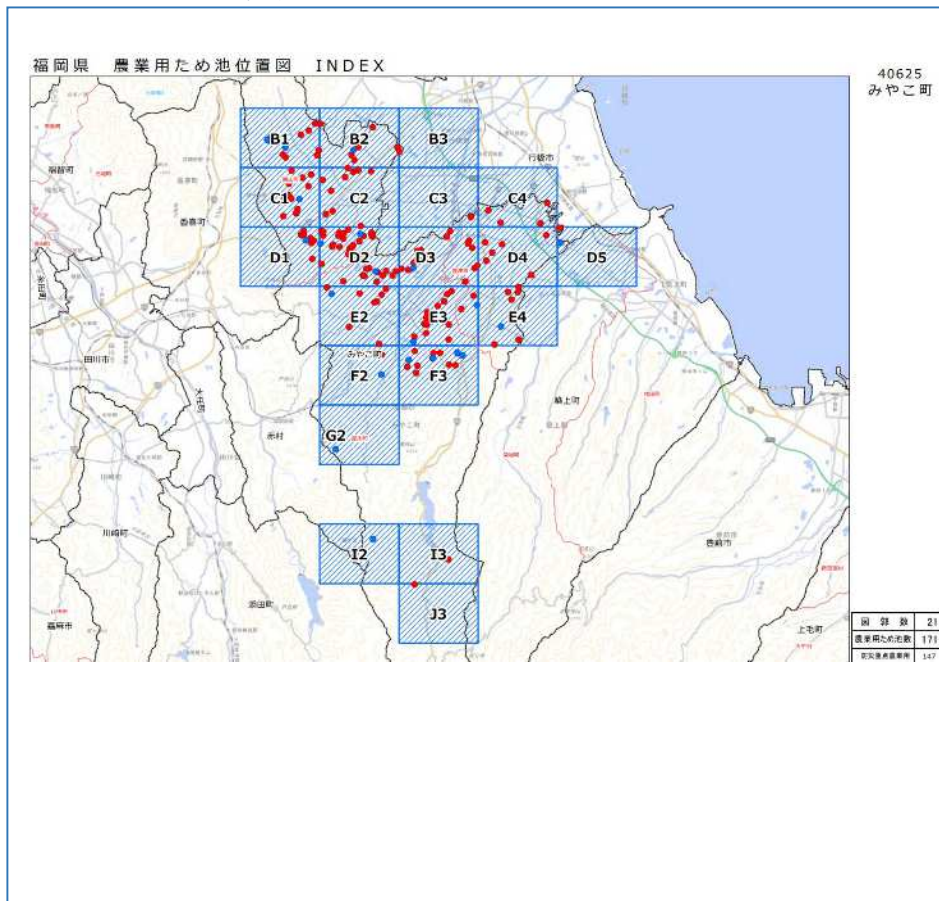
ため池の補強・有効活用

(みやこ町の取り組み)

- 堤体等に変状が確認されたため池に対し、修繕や応急処置の材料を支給します。

集水域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明

堤体等に変状が確認されたため池に対し、ため池を管理している行政区長の申請により、修繕や応急処置の材料を支給する(上限有り)。

堤体等に変状が確認されたため池については、工事の実施により堤体等の変状を回復する事が望ましいが、当町では工事の際、地元負担金を課すので中々工事に取り組みない事が多い。修繕や応急処置の材料を支給する事により変状の拡大を防止する。

雨水貯留浸透機能の向上

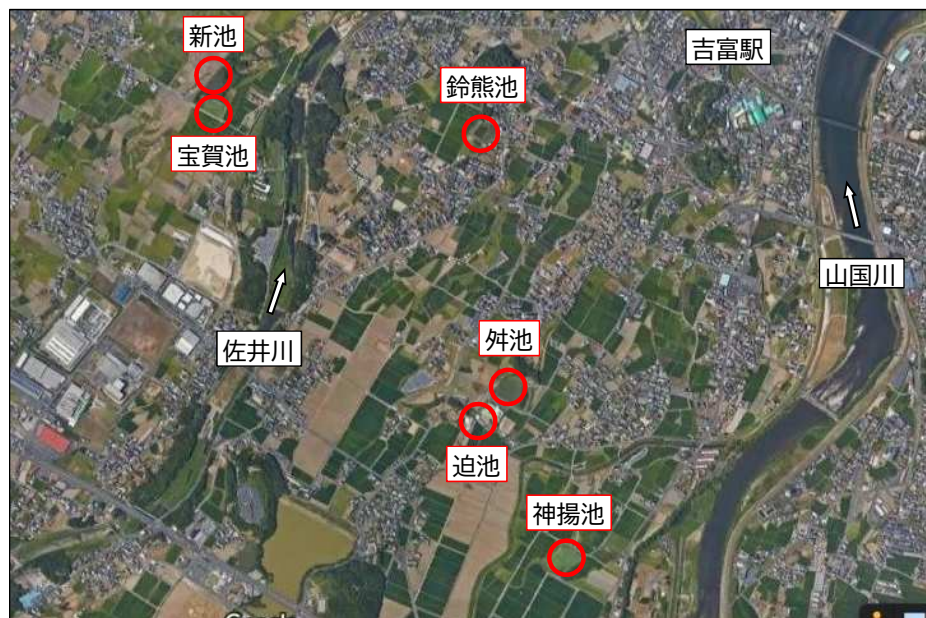
ため池の補強・有効活用

(吉富町の取り組み)

- 令和元年度に防災重点農業用ため池(6池)の防災ハザードマップを策定し、ホームページに掲載し周知しています。
- 令和2年度に県より指定された防災重点農業用ため池(4池)の地震・豪雨耐性評価を行い調査結果に基づき経過監視、補修、防災工事等を実施し、適正に管理していきます。
- 令和3年度から防災重点農業用ため池(6池)の劣化状況評価を行い、地震・豪雨耐性評価の結果と併せて、ため池の漏水、決壊がないように、経過監視、補修、防災工事等を実施し、適正な管理に努めています。

集水域

■位置図・写真



出典:<https://www.google.co.jp/maps/>

■取り組み内容の説明

- ① ハザードマップ策定(令和元年度)
防災重点農業用ため池全6池(新池、宝賀池、外池、神揚池、鈴熊池、迫池)について策定済み
- ② 地震・豪雨耐性評価(令和2年度)
県より指定された防災重点農業用ため池4池(新池、宝賀池、外池、神揚池)にて調査を実施済み
- ③ 劣化状況評価(令和3年度～令和5年度)
防災重点農業用ため池全6池について調査を実施予定
- ④ ため池補修・対策工事
劣化状況評価、地震・豪雨耐性評価の結果に基づき、ため池の補修及び対策工事を実施

戦略的な維持管理

農業水利施設(排水機場)の長寿命化

(吉富町の取り組み)

- 大雨時には、内水を黒川に集め、黒川から佐井川へ排水することとしています。このため、黒川河口部に排水機場を整備し、強制排水することで、内水氾濫を防止しています。
- 施設の維持管理については、定期的な点検と使用後のメンテナンスのほか、中長期的には、機能診断による機能保全計画に基づき、計画的に改修・更新を行っています。

氾濫域

位置図・写真



取り組み内容の説明



避難場所や避難経路の確保

全町民を対象とした防災避難訓練

(吉富町の取り組み)

- ▶ H26年度から毎年、全町民を対象とした防災避難訓練を開催している。(R2～R4はコロナ禍のため中止)
- ▶ 実動型訓練、見学・体験型訓練の2種類の訓練を通して自助、共助の力を身に付け、防災、減災力を高めている。

■位置図・写真

集団避難
の様子



防災講演会

「近年の災害から
見えてきた防災の
取組み（自助・共助・公
助）について」



■取り組み内容の説明

【事前打合せ会議】

事前に自主防災組織役員、各関係機関と協議し関係者が訓練の趣旨、流れを理解した上で訓練に臨む。

【避難訓練実施】

《実動型訓練》

- 3種類の町からの避難に関する情報を受け適切な避難行動を行う。
- ①町内全域に高齢者等避難→避難行動要支援者の避難支援を開始
- ②土砂災害警戒区域に避難指示→土砂災害警戒区域の避難開始
- ③町内全域に避難指示（河川氾濫の恐れ）→全町民避難開始

《見学・体験型訓練》

訓練指定避難所である小学校に避難後、消防、自衛隊、河川事務所等の関係機関による防災展示ブースを見学・体験
別途、防災講演会を実施

《反省会》

後日、自主防災組織役員、各関係機関の代表による反省会を行い、気づきや問題点を共有することで各地区の避難体制の強化や、町の避難所設備の改善につなげる。

雨水貯留浸透機能の向上

ため池の補強・有効活用

(上毛町の取り組み)

- 上毛町では50箇所の防災重点農業用ため池について、「緊急時等の迅速な避難行動」につながる対策として、「ため池ハザードマップ」の作成を進め、ホームページに掲載し周知しています。
- 令和3年度からは、50箇所のため池の影響度の高い順に「ため池劣化状況評価」を実施中です。今後劣化状況評価、及び地震・豪雨耐性評価の結果に基づき、必要な補修・対策工事を実施し、ため池の適正な維持管理に努めます。

氾濫域

集水域

■位置図・写真

①ため池ハザードマップ作成例



②劣化状況評価作業風景(漏水量調査)



■取り組み内容の説明

- ① ハザードマップの作成
令和3年度までに11箇所のハザードマップを作成し、令和8年度までに50箇所全てのため池について、作成する予定である。
- ② 劣化状況評価
令和3年度までに5箇所のため池で実施し、令和7年度までに全てのため池について実施する予定である。
- ③ 地震・豪雨耐性評価
令和2年度までに7箇所、令和3年度に2箇所で実施している。令和4年度以降は、劣化状況評価結果に基づき、必要と認められるため池に関して地震・豪雨耐性評価を実施する。
- ④ ため池補修・対策工事
劣化状況評価、地震・豪雨耐性評価の結果に基づき、ため池の補修及び対策工事を実施する。

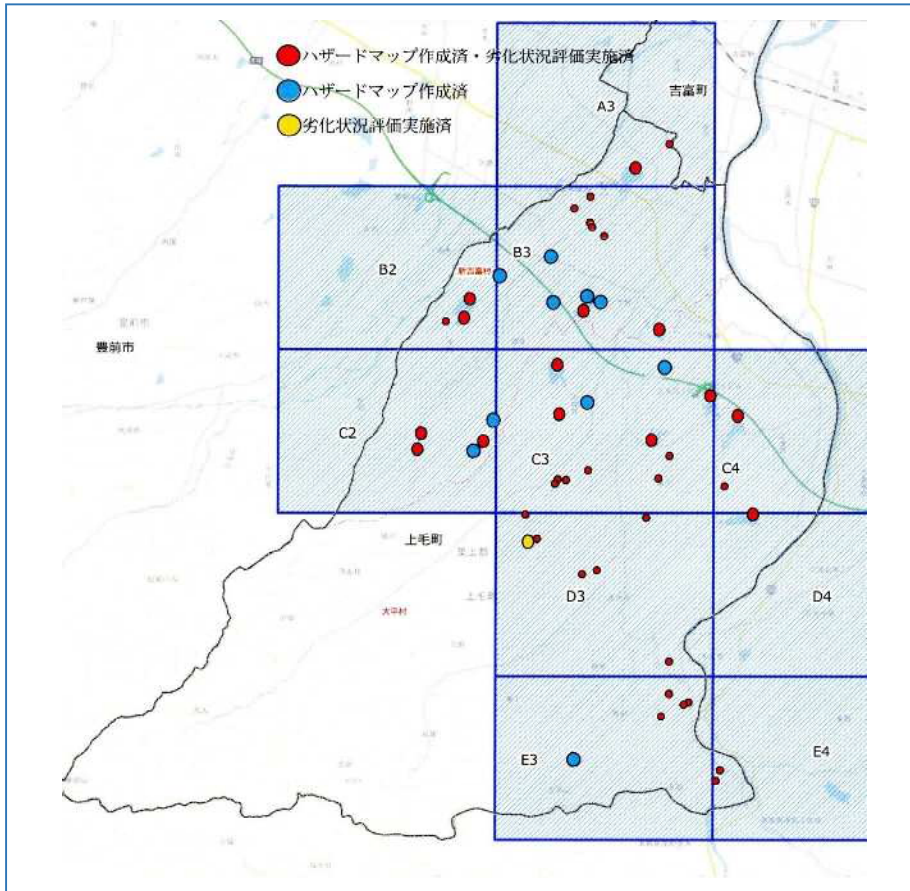
水害リスク情報の共有

ため池の補修・対策及び適正な維持管理、ため池ハザードマップの公表作成

(上毛町の取り組み)

○令和3年度からは、50箇所のため池を影響度の高い順に「ため池劣化状況評価」を実施しています。今後、劣化状況評価及び地震・豪雨耐性評価の結果に基づき、必要な補修・対策工事を実施し、ため池の適正な維持管理に努めます。(R5年度までに29箇所実施予定 R7年度終了予定) また、対策工事を実施するまでのソフト対策として、従来作成した浸水想定区域図を元に地域の方から聞きとりした情報を盛り込んだ「ため池ハザードマップ」を作成します。(R5年度までに30箇所作成済 R8年度終了予定)

ため池劣化状況評価・ハザードマップ作成箇所



ため池ハザードマップワークショップ実施状況



○より効果的なハザードマップを作成するため、地域の水利関係者の意見を聞いています。

○昔からその地域に住んでる方しか知り得ない情報も入手することができ、ハザードマップの掲載情報も充実した内容となりました。



雨水貯留浸透機能の向上

ため池の防災・耐震工事の実施

(築上町の取り組み)

- 町内防災重点ため池の劣化状況評価及び耐震豪雨評価を行い、対策が必要とされるため池については防災工事及び耐震工事の実施を検討し、雨水貯留機能の向上を図る。

集水域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明

ため池耐震診断実施状況



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

京築・行橋・田川圏域 流域治水プロジェクト【取り組みの紹介】

～「うみ」「まち」「さと」「やま」が豊かな地域を水災害から守る圏域が一体となった流域治水の推進～

福岡県

水害リスク情報の共有

各種ハザードマップの作成・公表

(行橋市、豊前市、添田町、赤村、苅田町、みやこ町、吉富町、上毛町、築上町の取り組み)

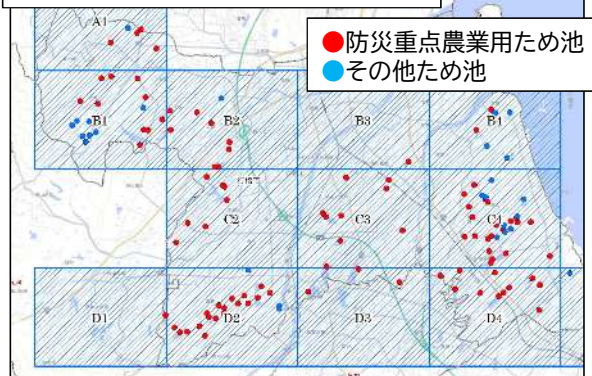
➤ 平成30年7月豪雨を踏まえた農業用ため池に関する「緊急時等の迅速な避難行動」につなげる対策として、「ため池マップ(福岡県作成)」、「ため池浸水想定区域図(福岡県作成)」、「ため池ハザードマップ(各市町村作成予定)」を公表します。

- 「ため池マップ」・・・農業用ため池の位置等を記載したもの。
- 「防災重点農業用ため池」・・・決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設などが存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池。
- 「ため池浸水想定区域図」・・・自然災害等によりため池が決壊し、満水状態の貯水が全て流出した場合に想定される下流域の浸水範囲・浸水深を色分け表示したもの。
- 「ため池ハザードマップ」・・・浸水想定区域図をもとに、情報の伝達方法、避難場所等に関する事項について表示したもの。

氾濫域

■取り組み内容の説明

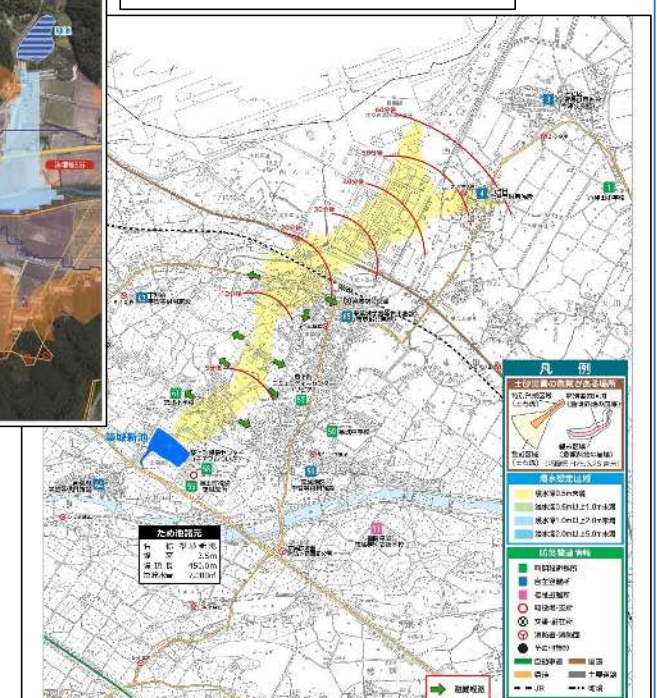
ため池マップ(例:行橋市)



ため池ハザードマップ(例:赤村)



ため池ハザードマップ(例:築上町)



ため池浸水想定区域図(例:苅田町)



既存ダムの洪水調節機能の強化

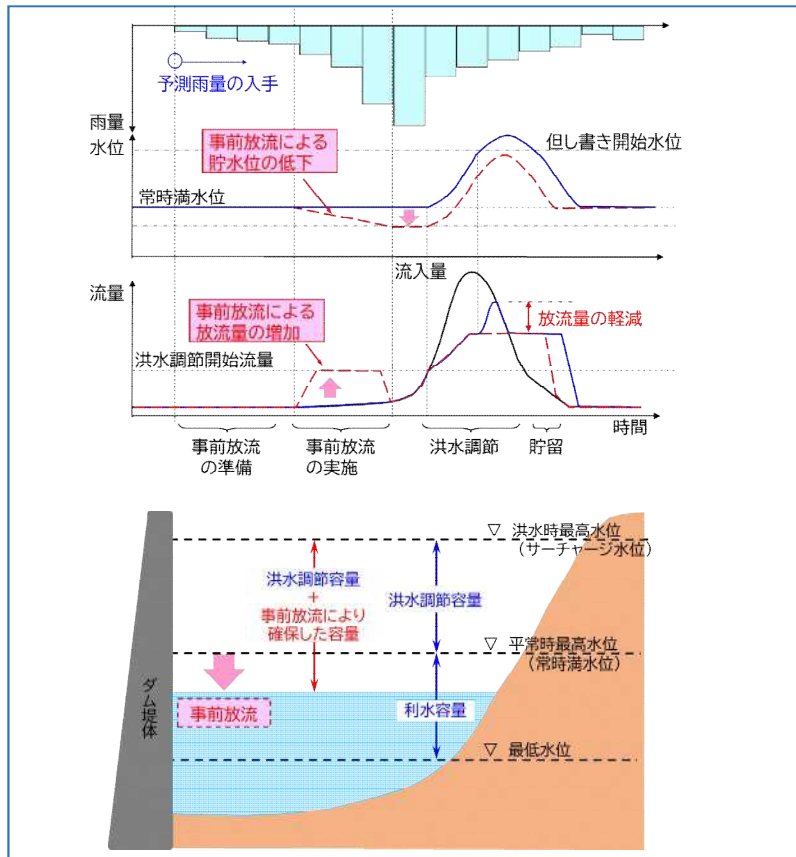
利水ダム等における事前放流の運用

(福岡県・施設管理者の取り組み)

- 事前放流は、ダム下流河川の沿川における洪水被害の防止・軽減を目的として、既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用できるように、ダムの利水容量の一部を事前に放流し、洪水調節に活用することです。
- 「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針」(令和元年12月)に基づき、京築・行橋・田川圏域の5ダムでは、治水協定を令和3年1月29日までに締結しました。
- この治水協定の締結により、既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用できるようになりました。

河川区域

■洪水調節容量を持つダムでのイメージ



■取り組み内容の説明

事前放流とは……

ダム上流の予測降雨量が、ダムごとに設定される基準降雨量を上回った場合に、予測されるダムの総流入量に対し、計画の洪水調節容量を超える量を、あらかじめ利水容量から確保するためにダムから放流すること。なお、利水容量から確保する容量は、洪水調節可能容量※1の範囲内で確保する。

※1 洪水調節可能容量とは、洪水調節に利用可能な利水容量

対象ダムの洪水調節容量と水害対策に使える容量 ※2

圏域	水系名	ダム名	管理者	有効貯水容量 (千m ³)	洪水調節容量 (千m ³)	水害対策に使える容量(千m ³)
京築・行橋・田川圏域	すだがわ 角田川	さんごくいけ 山谷池ダム	豊前市	110	0	19
	さいがわ 城井川	おがわ 小川ダム	築上町	1,081	0	176
	はらいがわ 祓川	いらはら 伊良原ダム	福岡県	27,500	9,000	13,883
	いまがわ 今川	あぶらぎ 油木ダム	福岡県	17,450	3,600	5,976
	ながおがわ 長峽川	やまくち 山口ダム	苅田町	736	0	132
圏域計					12,600	20,186

約1.60倍

※2 水害対策に使える容量 = 洪水調節容量 + 洪水調節可能容量

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

京築・行橋・田川圏域 流域治水プロジェクト【取り組みの紹介】

福岡県

～「うみ」「まち」「さと」「やま」が豊かな地域を水災害から守る圏域が一体となった流域治水の推進～

内水氾濫対策 雨水貯留浸透機能の向上

農業水利施設の整備・有効活用
ため池の補強・有効活用
水田の貯留機能向上

(福岡県の取り組み)

- 流域治水の取組において、農業の多面的機能の発揮に期待が高まっており、排水機場やため池などの農業水利施設について、施設の更新・改修及び長寿命化を図ることで、湛水被害の防止・軽減に向けた施設の有効活用が出来るよう支援します。
- 田んぼダムについては、多面的機能支払交付金等を活用した地域の取組を支援します。

氾濫域

集水域

■位置図・写真

排水機場の整備・有効活用



(排水ポンプの改修事例)



ため池の補強・有効活用

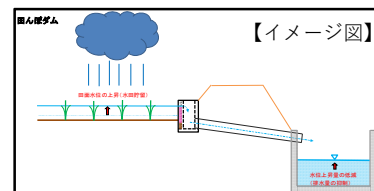


(ため池の改修事例)



水田の貯留機能向上 (田んぼダム)

(田んぼダムの実施事例)



■取り組み内容の説明

- 農業水利施設の整備・有効活用
 - ・農業用の用排水路や排水機場・樋門等は、農地だけではなく、農村集落などの湛水の防止・軽減にも活用されています。
 - ・老朽化により、機能が低下した施設については、補助事業を活用し、更新・改修などの対策を実施します。
- ため池の補強・有効活用
 - ・ため池は大雨が予想される際にあらかじめ水位を下げることによって、洪水調節機能を発揮することができます。
 - ・老朽化等により決壊の恐れがあるため池について、補助事業を活用し、堤体の補強や洪水吐の改修などを実施します。
- 水田の貯留機能向上
 - ・田んぼダムの取組によって、下流域の湛水被害リスクを低減します。

雨水貯留浸透機能の向上

透水性舗装の実施

(福岡県の取り組み)

- 県内の歩道整備において、目詰まりや雑草が繁殖しやすい箇所等以外は原則、透水性舗装を運用しています。
- 雨水を路面排水ではなく、路盤下へ浸透させ、雨水の流出抑制を図ります。

集水域

■位置図・写真

「県道 福岡日田線(筑紫野市)」

【整備前】



【整備後】



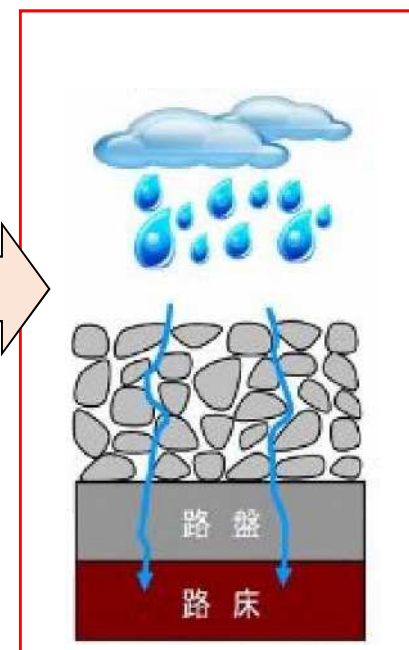
■取り組み内容の説明

透水性舗装のイメージ

【通常（密粒）舗装】



【透水性舗装】



洪水氾濫対策

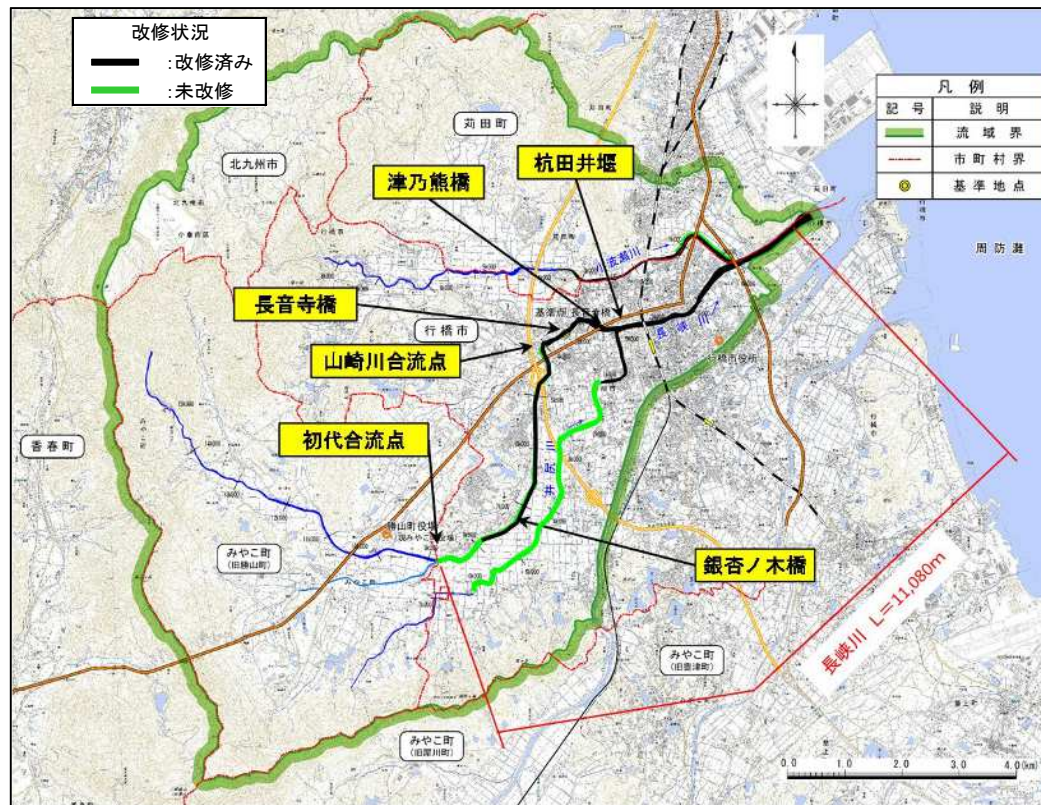
河道掘削・拡幅、護岸整備等(長峽川)

(福岡県の取り組み)

- 長峽川は、整備計画の目標流量を安全に流下させることができるように、河床の掘削、護岸整備等の河川改修を行います。
- 河川工事の対象区間は杭田井堰(2k542)から初代川合流点(9k000)までとします。関連する工事については、上記区間以外も対象区間として適切に実施します。

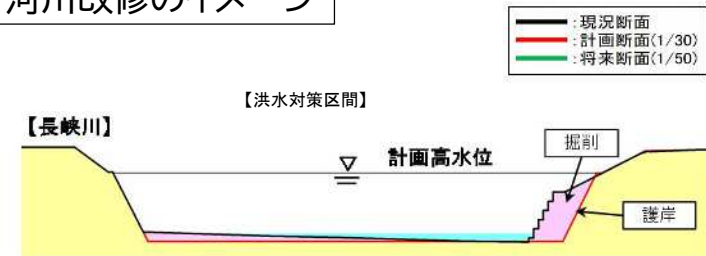
河川区域

位置図・写真



取り組み内容の説明

河川改修のイメージ



現況河道の写真

長音寺橋より下流の状況(護岸整備後)



銀杏の木橋より上流の状況(現況河道)



氾濫をできるだけ防ぐ・
減らすための対策

京築・行橋・田川圏域 流域治水プロジェクト【取り組みの紹介】

福岡県

～「うみ」「まち」「さと」「やま」が豊かな地域を水災害から守る圏域が一体となった流域治水の推進～

洪水氾濫対策

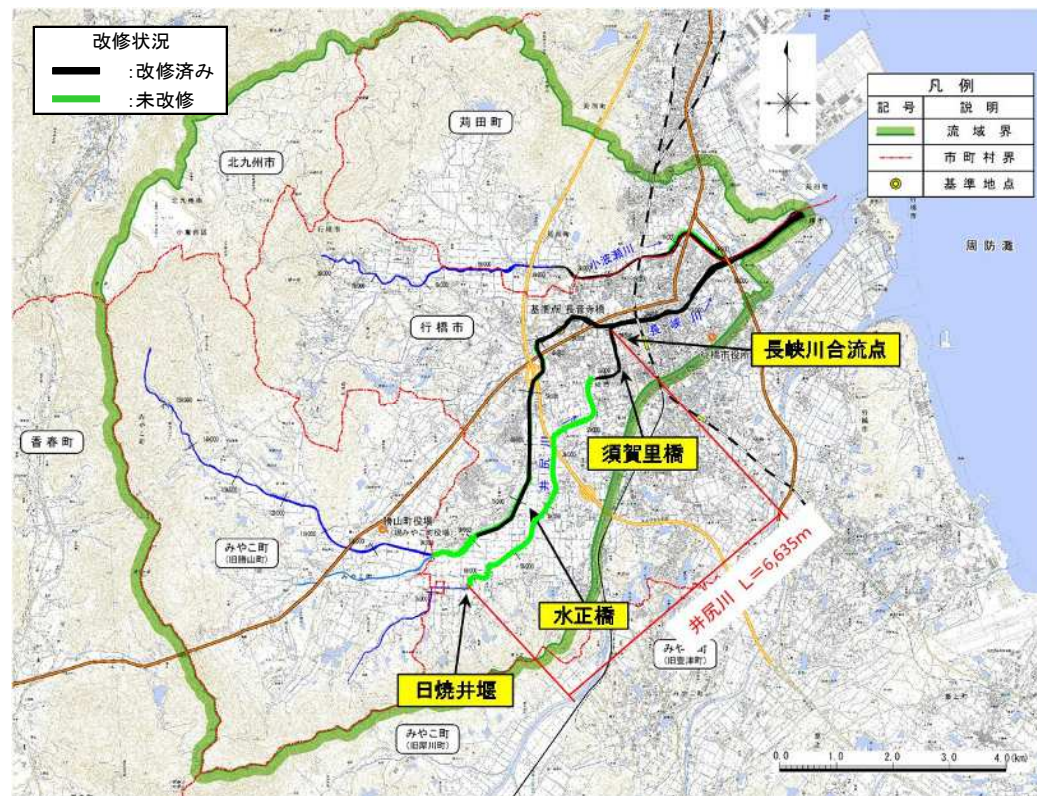
河道掘削・拡幅、護岸整備等(井尻川)

(福岡県の取り組み)

- 井尻川は、整備計画の目標流量を安全に流下させることができるように、井堰の改築、河床の掘削、護岸整備等の河川改修を行います。
- 河川工事の対象区間は長峽川合流点(0k000)から日焼井堰(6k240)下流までとします。関連する工事については、上記区間以外も対象区間として適切に実施します。

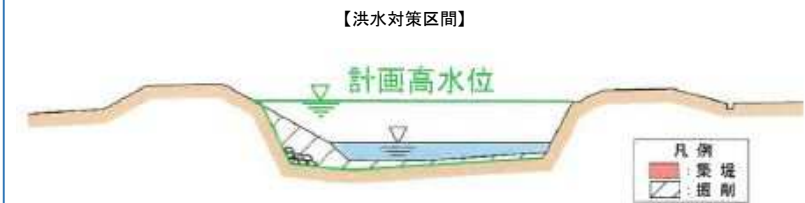
河川区域

位置図・写真



取り組み内容の説明

河川改修のイメージ



現況河道の写真

須賀里橋より上流の状況(護岸整備後)



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

京築・行橋・田川圏域 流域治水プロジェクト【取り組みの紹介】

福岡県

～「うみ」「まち」「さと」「やま」が豊かな地域を水災害から守る圏域が一体となった流域治水の推進～

洪水氾濫対策

河道掘削・拡幅、護岸整備等(江尻川)

(福岡県の取り組み)

- 江尻川は、整備計画の目標流量を安全に流下させることができるように、河床の掘削、護岸整備、築堤等の河川改修を行います。また、下流部においては、津波及び高潮対策によるパラペットの整備等の改修を行います。
- 河川工事の対象区間は江尻川河口(0k000)から金川橋(4k550)までとします。

河川区域

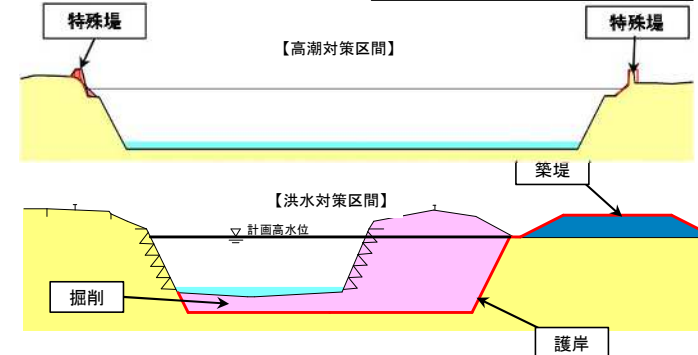
位置図・写真



取り組み内容の説明

河川改修のイメージ

黒線 : 現況断面
 赤線 : 計画断面(1/30)



現況河道の写真

江尻川橋より下流の状況(高潮堤防工事後)



蔵丸橋より下流の状況(護岸工事後)



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

京築・行橋・田川圏域 流域治水プロジェクト【取り組みの紹介】

～「うみ」「まち」「さと」「やま」が豊かな地域を水災害から守る圏域が一体となった流域治水の推進～

福岡県

砂防対策

砂防施設の整備、急傾斜地崩壊防止施設の整備

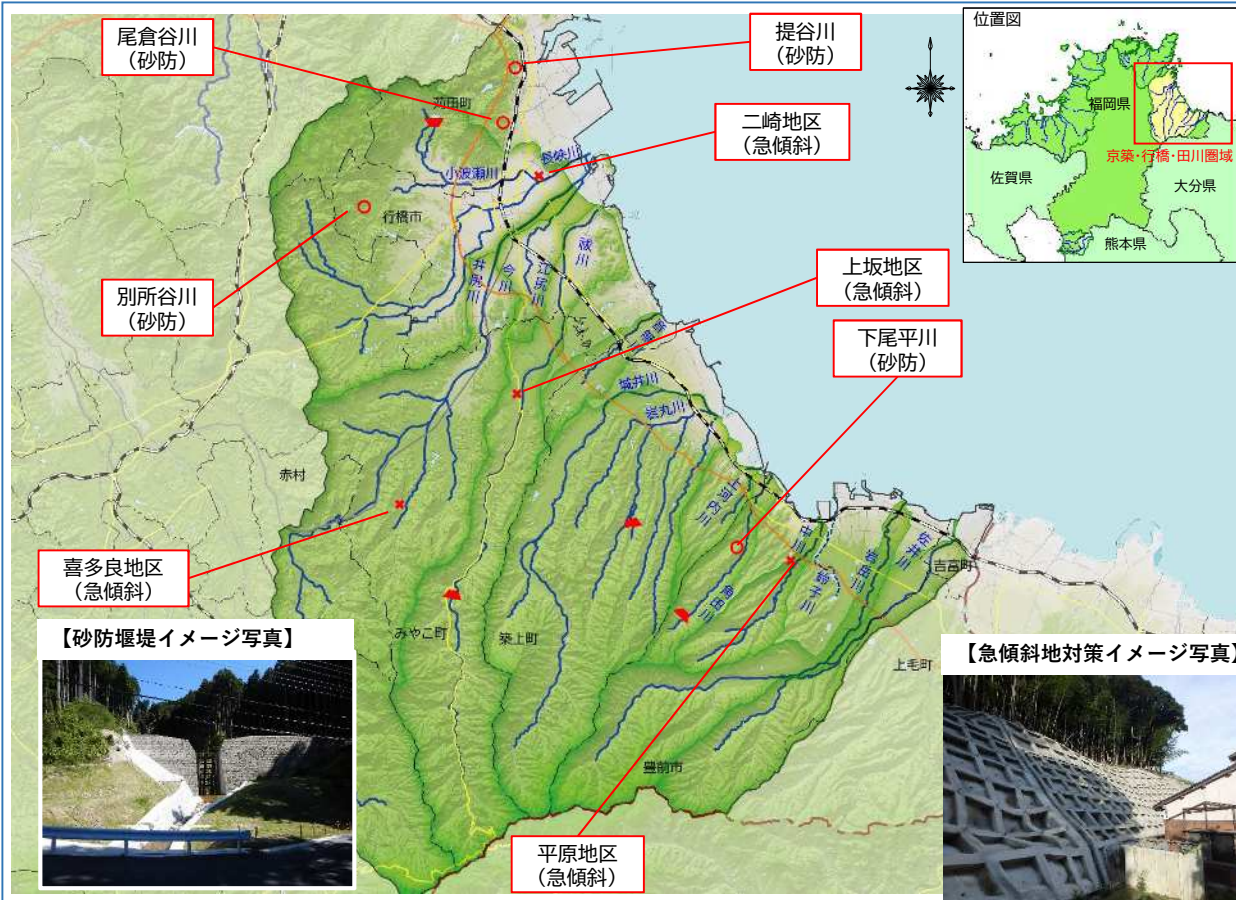
(福岡県の取り組み)

- ▶ 流域内の溪流における土砂流出や流木を抑制する砂防施設の整備、避難の実効性・安全性を高めるために避難所・避難路等を保全する急傾斜地の対策や地すべり対策を実施します。

河川区域

集水域

位置図・写真



取り組み内容の説明

<各事業イメージ>

【砂防】



長雨や集中豪雨などで、山腹や谷川の石や土砂がいききに下流に流れだす土砂災害を防止する事業

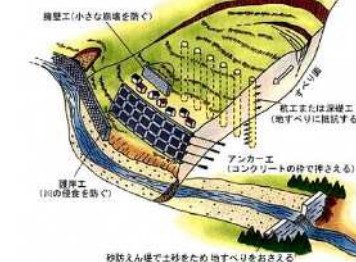
【急傾斜】

雨水がしみ込んで、やわらかくなった斜面が急に崩れ落ちる土砂災害を防止する事業



【地すべり】

抑止工の模式図



地盤が弱い土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が、地下水の影響と重力でゆっくり下へ移動する土砂災害を防止する事業

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

京築・行橋・田川圏域 流域治水プロジェクト【取り組みの紹介】

福岡県

～「うみ」「まち」「さと」「やま」が豊かな地域を水災害から守る圏域が一体となった流域治水の推進～

森林整備、治山対策

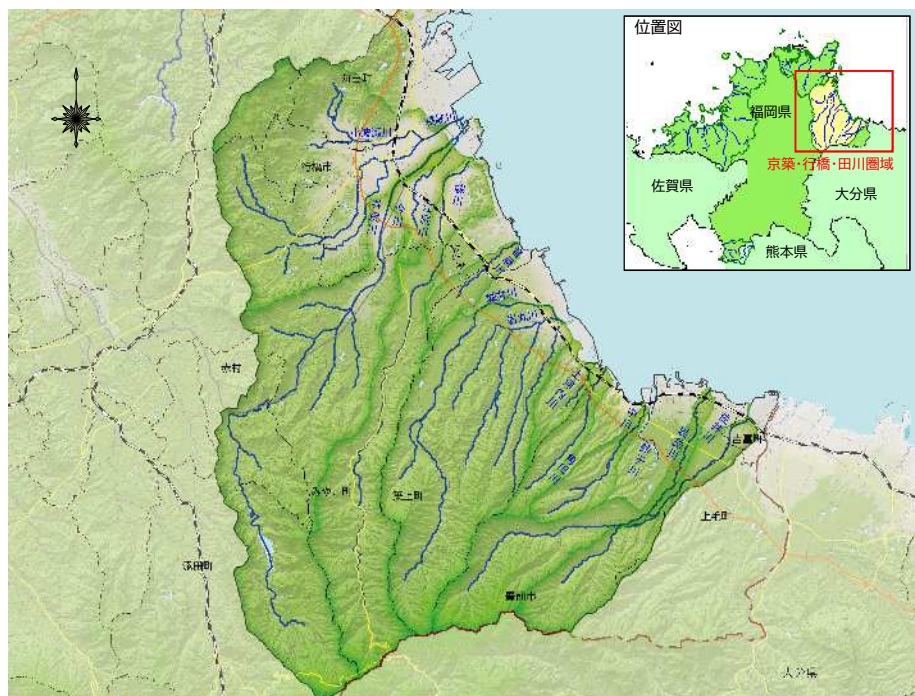
森林整備事業の実施
水源林造成事業の実施
治山施設の整備

(福岡森林管理署、森林整備センター、福岡県の取り組み)
(森林整備センターの取り組み)
(福岡森林管理署、福岡県の取り組み)

- 森林は水源涵養機能や山地災害防止機能等の公益的機能を有しており、この機能の適切な発揮に向け、森林整備、治山対策を推進します。

集水域

■位置図・写真



【実施主体】※ 圏域一円で実施
・福岡森林管理署
・森林整備センター
・福岡県

■取り組み内容の説明

間伐等の森林整備の実施により雨水を地中に素早く浸透させ、ゆっくり流出させるといふ森林の洪水緩和機能を保全するとともに、治山事業の実施により流木・土砂の流出抑制効果を発揮させることで、流域全体における防災・減災対策に資する。

森林整備による浸透能の向上効果



治山事業の実施による流木・土砂の流出抑制効果



防災意識の啓発

防災意識啓発のための広報活動

(福岡管区気象台の取り組み)

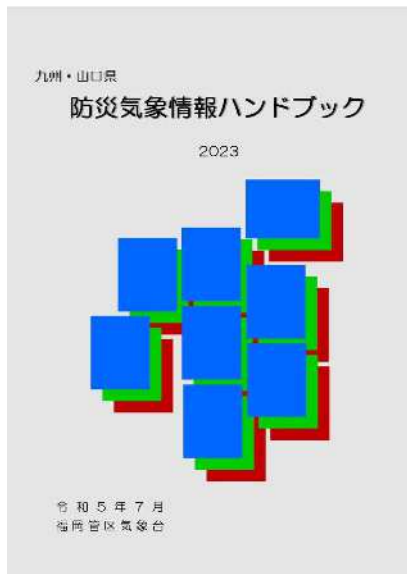
- 福岡管区気象台HPに防災気象情報ハンドブックや防災教育プログラム等を掲載しています。



氾濫域

■取り組み内容の説明

九州・山口県 防災気象情報ハンドブック2023



防災気象情報の虎の巻
として、傍に置いてご
活用ください。



<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/chosa/handbook/1-1.html>

10分で防災



実際の授業などで活
用できるように、コ
ンテンツとテキスト、
学習指導案のセット
を掲載。小学校高学
年向けの内容。



<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/chosa/education/10mb.html>

リアルタイム防災情報の共有

警戒レベルに応じた防災気象情報の周知

(福岡管区気象台の取り組み)

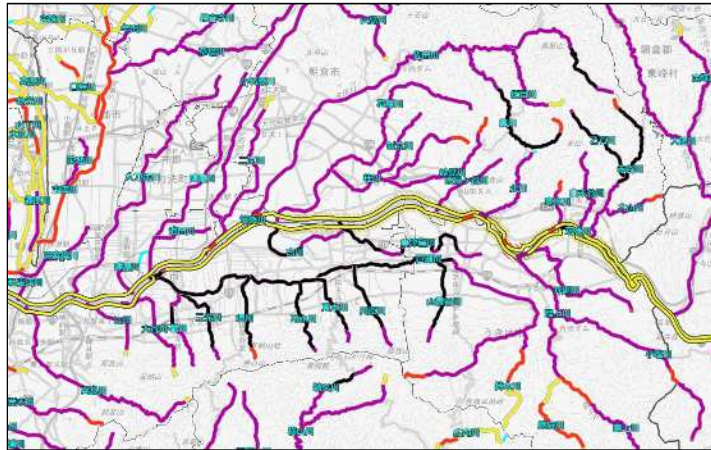
➤ 大雨時の「洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)」の活用について、各種会議、説明会、出前講座等により周知を図っています。



氾濫域

取り組み内容の説明

洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)



洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)の色に応じた住民等の行動の例

色が持つ意味	状況	住民等の行動の例※1・2	内閣府のガイドラインで発令の目安とされる避難情報	相当する警戒レベル
災害切迫 大雨特別警報(浸水害)の指標に用いる基準に実況で到達	重大な洪水災害が切迫。洪水災害がすでに発生している可能性が高い状況。	(立退き避難がcaえて危険な場合) 命の危険 直ちに身の安全を確保!	緊急安全確保 ※5	5相当
<警戒レベル4までに必ず避難!>				
危険 3時間先までに警報基準を大きく超過した基準に到達すると予想	水位周知河川・その他河川がさらに増水し、今後氾濫し、重大な洪水災害が発生する可能性が高い状況。	水位が一定の水位を超えている場合には、 安全な場所へ避難する。 ※3	避難指示	4相当
警戒 3時間先までに警報基準に到達すると予想	洪水災害への警戒が必要な状況。	水位が一定の水位を超えている場合には、 高齢者等は安全な場所へ避難する。 ※4 高齢者等以外の方も、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自ら避難の判断をする。	高齢者等避難	3相当
注意 3時間先までに注意基準に到達すると予想	洪水災害への注意が必要な状況。	ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	2相当
今後の情報等に留意	—	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	—



令和5年2月16日より洪水キキクルと水害リスクラインを一体的に表示する改善を行った。

※1 洪水キキクルに関わらず、自治体から避難情報が発令された場合や河川管理者から氾濫危険情報等が発令された場合には速やかに避難行動をとること。
 ※2 洪水予報河川の外水氾濫については、洪水キキクルではなく、河川管理者と気象台が共同で発表している指定河川洪水予報等を踏まえて避難情報が発令されるため、それぞれに留意し、適切な避難行動を心がけること。
 ※3 洪水予報河川・水位周知河川以外で水位を観測していない河川においては、現地情報を活用した上で、洪水キキクル(紫)を参考に安全な場所へ避難する。
 ※4 洪水予報河川・水位周知河川以外で水位を観測していない河川においては、洪水キキクル(赤)を参考に高齢者等は安全な場所へ避難する。
 ※5 災害が発生・切迫している状況を市町村が必ず把握することができる(制限なし)こと等から、緊急安全確保(必ず発令される情報ではない。また、警戒レベル5相当情報が出たからといって、必ず緊急安全確保が発令されるわけではない)。

防災意識の啓発

自治体職員向け気象防災ワークショップの実施

(福岡管区気象台の取り組み)

- ▶ 土砂災害や洪水災害が発生するおそれがある状況において、各種の防災気象情報を適切に理解し、有効に活用するとともに、自治体の防災体制の判断等を疑似体験することで、判断のポイントを学んでいただきます。

■ 取り組み内容の説明

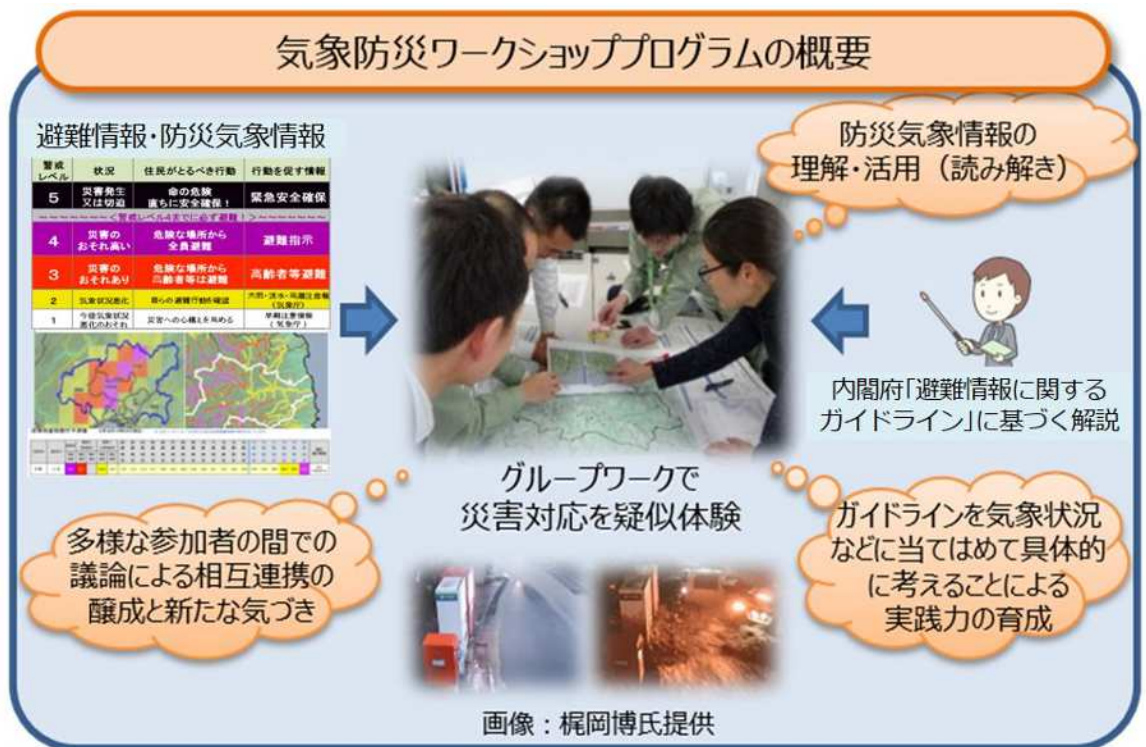
福岡管区気象台でのワークショップの様子



【参加者の声】

- ・業務に役立つ知識や情報を得ることができた。
- ・他の自治体の方と意見交換する貴重な機会だった。
- ・自らの考えとの違いからの様々な気づきを得られた。

気象防災ワークショッププログラムの概要



画像：梶岡博氏提供

住民等への防災情報の周知

様々な防災情報提供ツールや情報提供媒体を活用した防災情報 伝達の強化・多重化（福岡県の取り組み）

▶ 取り組み内容の紹介

福岡県防災ホームページや福岡県防災アプリ・メール等により、防災情報を提供

■ 取り組み内容の説明

福岡県では、気象情報や避難所の開設・混雑情報等を分かりやすく提供し、住民の適切な避難行動につなげるため、福岡県防災ホームページや福岡県防災アプリ・メール等による情報発信を行っています。

(1) 福岡県防災ホームページ

食料品の日常備蓄や非常持ち出し袋の紹介など、防災に関する情報を発信するとともに、災害時には「避難指示」等の状況を地図上で分かりやすくお知らせする他、避難所の混雑状況も配信

(2) 福岡県防災アプリ「ふくおか防災ナビ・まもるくん」

現在地及び登録した県内市区町村の気象情報等を容易に入手できるスマートフォンアプリを開発し、令和4年12月から配信を開始

(3) 防災メール・まもるくん

災害時に気象警報発表状況や避難に関する情報、各市町村の避難所開設状況等を、あらかじめ登録されたメールアドレスに配信



防災意識の啓発

防災教育、出前講座の実施及び水防災学習の支援（福岡県の取り組み）

▶ 取り組み内容の紹介

子どもや高齢者、外国人など、ターゲットを絞った防災意識の向上

■ 取り組み内容の説明

福岡県では、きめ細かく意識啓発を進めるため、子どもや高齢者、外国人など、ターゲットを絞った防災意識の向上を図っています。



(1) 福岡県政出前講座

地域からの求めに応じ、県防災アプリの活用等について、出前講座を実施。

(2) 高齢者向け防災パンフレット

シニア世代の防災の手引きを作成し、老人クラブや公民館等に配布

(3) 外国人向け防災ハンドブック・リーフレット

外国人向けの防災ハンドブック等を作成し、観光案内所や宿舎・ホテル等に配布

(4) 防災教育副読本

小学校の防災教育で使用する防災教育副読本を作成し、県ホームページで公開

※(2)～(4)は福岡県防災ホームページに掲載(ダウンロード可)



リアルタイム防災情報の共有

水位計・量水標・河川監視カメラの設置

(福岡県の取り組み)

- 福岡県では、危機管理型水位計及び簡易型河川監視カメラの設置を進めています。
- 河川水位、雨量、河川監視カメラ、ダム情報など避難判断に資するリアルタイム情報をインターネットで配信しています。

氾濫域

取り組み内容の説明

①「福岡県総合防災情報」にアクセス

福岡県総合防災情報 検索

<http://doboku-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/gis/info/top/menu>

QRコード



②トップページの河川情報－水位情報の「詳細表示」をクリック



③メニューから危機管理型水位計をクリック
→危機管理型水位計一覧表から水位計を選択

メニュー	危機管理型水位計一覧表			
河川情報	河川名	同名	市町村名	現在水位 (堤防の高さまで)
雨量情報	築港川	中島橋	小郡市	あと123cm
水位情報	吉原川	山丸橋	遠賀郡遠賀町	あと64cm
水位現況表	名神川	山丸橋	田川郡香春町	あと194cm
水位一括表	瀬田川	山丸橋	田川郡香春町	あと162cm
降雨中最高水位表	豊後田川	夜渡橋	豊後郡玖波町	あと86cm
ダム情報	戸畑川	志川橋	遠賀郡遠賀町	あと42cm
基準値超過情報	山の井川	城島大橋	久留米市	あと345cm
河川カメラ情報	遠慮川	高橋	糟屋郡粕屋町	あと238cm
洪水予報	安宅川	馬場橋	田川郡川崎町	あと198cm
避難判断水位到達情報	長延川	小れあい橋	八女郡広川町	あと141cm
氾濫危険水位到達情報				
危機管理型水位計				
水防情報				
ダム異常洪水時防災対策等情報				



③メニューから河川カメラ情報をクリック

→表示エリアから市町村を選択

→表示したい画像上でカメラ画像表示を選択



防災意識の啓発

防災意識啓発のための広報活動

(福岡県の取り組み)

- 自主的な避難行動を促進することを目的に、洪水・高潮・土砂崩れなどによる災害に対する自助行動啓発パンフレットを作成しました。
- このパンフレットには、災害時に住民のみなさんが主体的に行動できるように、防災情報取得方法や活用方法などの解説、洪水や高潮、土砂災害などの災害発生メカニズム等に加え、想定最大規模に対応した内容を掲載しています。

氾濫域

■取り組み内容の説明

災害発生時に最も重要なのは
自助＝自分の命は、自分で守る

自分(家族含む)の身を自分で守ること。

近所どうして、互いに助け合って地域を守ること

自助

相互に連携

消防・警察や行政職員による救助・支援活動

共助

公助

< パンフレット 一式 >



< 概要版 >



福岡県ホームページ

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/self-help-action.html>

タイムラインの作成、ホットラインの構築

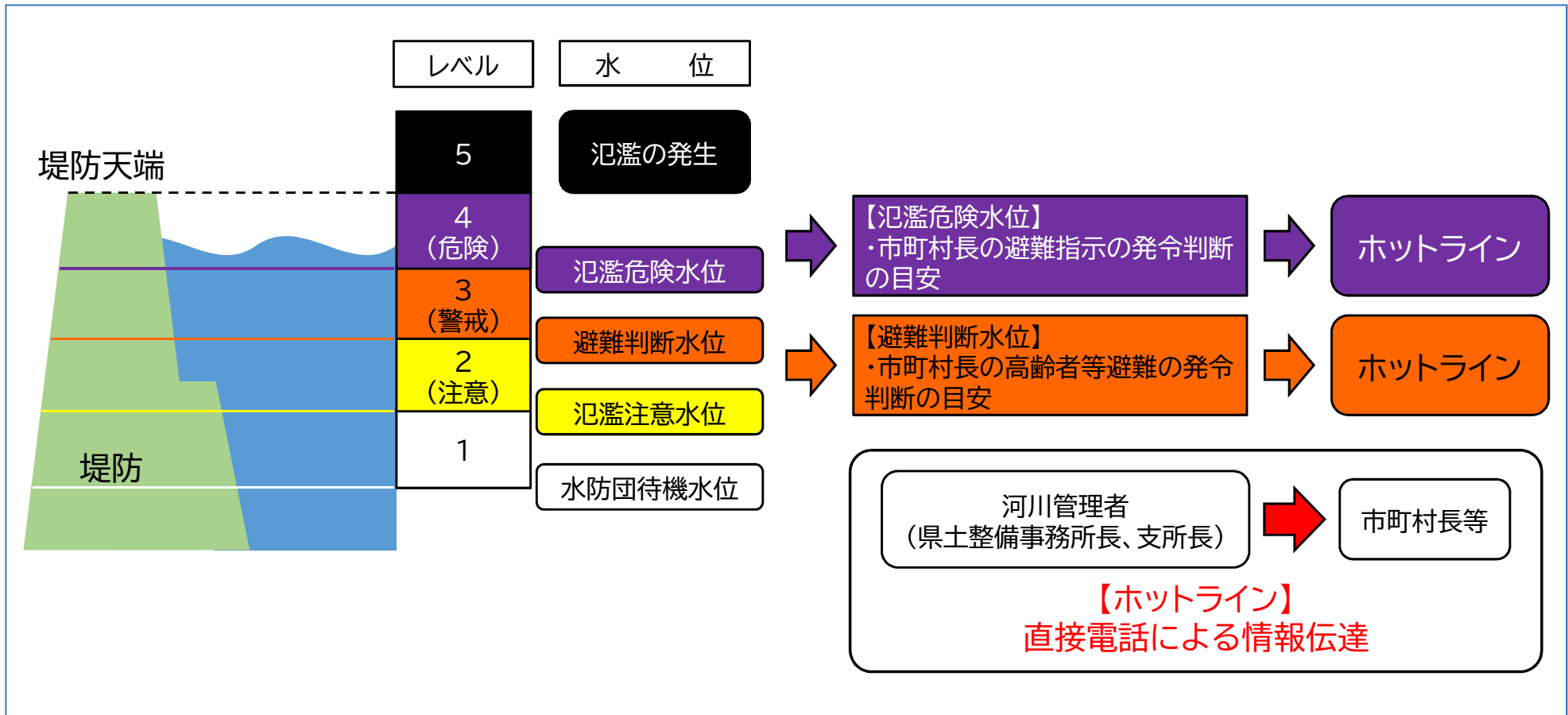
関係機関のホットラインの構築

(福岡県の取り組み)

- 河川管理者から直接、避難判断水位と氾濫危険水位に到達するタイミングで、市町村長などに対し確実に情報伝達を行うことにより、市町村長が行う避難指示等の発令にかかる判断を支援することを目的としています。
- 県が管理する水位周知河川においては、平成30年5月に市町村とのホットラインを構築し、運用しています。

氾濫域

■ 取り組み内容の説明



水害リスク情報の共有

各種浸水想定区域図(または過去の浸水実績範囲)の作成・公表

(福岡県の取り組み)

- 小規模河川の水害リスク情報として、洪水浸水想定区域図の作成・公表を順次進めております。
- 県管理の洪水予報河川と水位周知河川に指定された41河川及び小規模河川290河川の洪水浸水想定区域図は、県のホームページで公開しています。(R5年5月時点)
- また、浸水範囲や任意箇所の浸水深を福岡県総合防災情報の地図情報から確認することができます。

氾濫域

■取り組み内容の説明

①「福岡県総合防災情報」にアクセス

福岡県総合防災情報 検索

<http://doboku-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/gis/info/top/menu>

QRコード



②トップページの地図情報(GIS)をクリック



防災気象情報 - 気象警報・注意報



③メニューから表示情報をクリック

→表示情報一覧から浸水想定区域にチェック



④地図上の任意の指定地点をクリック

→指定地点の浸水深が表示できます。



被害の軽減

個別避難計画作成促進事業

(福岡県の取り組み)

- 個別避難計画の作成率が低い市町村の計画作成への理解向上及び避難支援者の確保等に取り組み、全市町村の個別避難計画作成率が100%に近づくよう支援する。

■取り組み内容の説明

県職員及び専門家の派遣等を行い、市町村の計画作成への取組を支援する。

[支援例]

① 避難支援者の確保の支援

市町村職員、福祉専門職(介護支援専門員、相談支援専門員等)、地域住民(民生委員、自主防災組織、消防団、自治会等)を対象として、個別避難計画作成のための基本的な知識の習得や、福祉専門職・地域住民が参画することの重要性等についての研修を通じ、避難支援者の候補者を確保。

② 協議会等の設置の支援

市町村防災部局と福祉部局、福祉専門職、地域住民間による連携体制を構築し、計画手順書の作成に向け協議する場を設置。

③ 計画手順書の作成の支援

協議会等において作成。(計画手順書のひな形は県が作成。)

④ 個別避難計画の作成の支援

協議会等の関係者が、避難行動要支援者ごとの計画を作成。

⑤ 個別避難計画の検証の支援

計画の実効性を確保するため、避難訓練を実施し、検証。